



方形の墳丘墓が2基見つかりました。  
1号墓：弥生時代終末期後半  
2号墓：古墳時代前期前葉



24本もの柱をもつ大型掘立柱建物跡です（弥生時代後期後葉）。



床面積が30㎡を超える大型竪穴住居跡が2カ所で見つかりました。

### <竪穴住居跡 (S1115)>

弥生時代から現在まで埋まりきらずに窪地として残っていた竪穴住居跡。このような窪地はこの他に松尾頭地区で6箇所見つかっています。  
この竪穴住居は、弥生時代終末期後半頃のもので、床面積は約29㎡（約16畳）あり、妻木晩田遺跡の中ではやや大型の住居跡です。



S1115 (29㎡)

### <大型竪穴住居跡 (S1119)>

床面積が約55㎡（約33畳）もある大型竪穴住居跡で、妻木山地区のS158（約58㎡、約36畳）に次ぐ、妻木晩田遺跡で2番目に大きなものです。時期は弥生時代終末期後半頃。



S1119 (55㎡)

### <9区>

新たに竪穴住居跡5棟を確認しました。大型竪穴住居跡が分布する3区の丘陵とは異なり、南側の丘陵では平均的な大きさの竪穴住居跡のみが分布していることが分かりました。この他、古墳時代から中世ごろの溝や第二次世界大戦中の塹壕の跡が見つかりました。



S1121・122



塹壕跡

旧小真石清水地区（現クリーンセンター）

松尾頭地区全体図 (S=1/1500)

### <凡例>

- 平成21年度調査範囲
- 弥生時代後期後葉 (2世紀後半)
- 弥生時代終末期前半 (3世紀前半)
- 弥生時代終末期後半
- 大型建物跡
- 竪穴住居跡
- 掘立柱建物跡
- ざんごう
- 塹壕跡

